

現在新宿御苑を構成している土地は、1590年に徳川家康（1543～1616）から内藤清成（1555～1608）に授けられた広大な屋敷の一部だったものです。内藤清成は、当時江戸城（現在の皇居）から東日本の当地域を治めていた大名、徳川家康の最も忠実な家臣の一人でした。1590年当時、日本は1467年から始まった戦国時代の終わりに近づいており、江戸城の東に位置するこの地域は、西は京都や大阪、南は1185年から1333年まで政治的首都であった鎌倉へと至る主要な街道が交差する要所にほど近いことから、非常に高い戦略的重要性を有していました。この街道を守ることはたいへん重要であったため、徳川家康はこの土地に広大な屋敷を置き、江戸での居所として内藤清成に授けたのです。1600年の関ヶ原の戦いの後、徳川家康は日本を再統一し、1603年から1867年まで日本を治めた江戸幕府の創設者となりました。